

「第130回創立記念祭を振り返る」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ day. 1

朝からの雨が昼前にはすっかりあがり、私たちを出迎えてくれたのは「創立記念祭」の看板です。「第一三〇回」と記してあります。毎年、国語の細野先生が筆で書いてくださいます。こうして大切な行事の際には常に一度きりの看板を作ってくださいます。いっつもながら伸びやかで品格のある文字が重厚感のある校舎と青空を背景によく映えています。



集合は国際会館。さすがに記念式典の際に、校長自ら写真を撮ってまわるわけにはいかないので、開演までが勝負です。どうしても撮っておきたかったもののひとつがステージ上に並べられた本校の前身「神戸一中」「県一高女」の校旗の隣に「神戸高校」の校旗が並ぶ絵です。



開会前に私は伝えました。「他校の記念式典で記憶に強く残るのは歌声がきれいで、生徒代表の挨拶が素晴らしいものです。でも、私が皆さんに期待したいのは、それに加えて『さすが、神戸高校生は違うな』と先輩方や来賓の方から思っただけのような姿なんです」と。



この日も高らかに歌われたみつつの校歌。校旗にさんざんに降り注いでいました。また、四綱領についての自らの思いを語ってくれた自治会長の挨拶はやはり期待どおりの素晴らしいものでした。教育長や同窓会長、PTA会長からの挨拶に対する万雷の拍手なども含めて、一連の所作は『さすが、神戸高校生は違うな』そう強く思わせてくれるもので、式典後に多くの方からお褒めの言葉をいただきました。嬉しかったですね。

その後の記念音楽会では多くの同窓会の方々が加わってくださった合唱、吹奏楽が文化の香りを漂わせてくれました。また、本校卒業生であり、作曲家としても活躍している南木千絵さんが創立130周年委嘱作品として書きおろしてくださった管弦楽『海を望む』も披露されました。坂の向こうに海を見下ろす本校ならではのロケーションにふさわしい柔らかく格調の高い旋律は実に美しいものでした。そして、音楽会を締め括ったのは会場に集まった同窓会、全校生徒による『サリマライズ』大合唱。式典、素晴らしいものでしたね。

○ day. 2



色とりどりのクラスTシャツが講堂を埋め尽くす姿は圧巻であり、これまでの神戸高校では見られなかった光景です。全校生によるカウントダウンあり、吹奏楽部によるファンファーレありの華々しい開幕。マイクを持たせていただいた私は生徒の皆さんと先生方に感謝を伝えたあと、こんなふうに挨拶をさせていただきました。

テーマは『Both』、「ともに」です。自治体の生徒は考えてくれました。「伝統と変革の両方を大切にしよう」と。だから私は昨日の式典でそれを意識して話したのです。「なぜ尊からずや我らあり」と私たちは胸を張れるのか。それは私たちが一貫して、歴史の糸をしっかりと受け継ぎながらも、それに束縛はされない。多少傲慢ではありますが、そのような生き方をめざしてきたからです。まさに「ともに」ですね。尊くあるために、ともに頑張りましょうか。

色とりどりのクラスTシャツ、それは「変革」の象徴でもあるのです。その後の演劇部の公演『夏芙蓉』、放送委員会による『一年の歩み』も実に見どころの多いものでした。ちなみに『夏芙蓉』のラストシーン、恥ずかしながら私の涙腺は崩壊してしまいました。実にいい演技でした。





ちなみに私のテーマはどれだけ文化部の活動を見ることができるか。箏とフルートの重なりは見事でしたし、宝塚階段を舞台にした合唱部のパフォーマンスや吹奏楽部のマーチングはいつもながら圧巻でした。



そう言えば、去年のオープンハイスクールの感想の中に「一日も早く、吹奏楽部に入り、一緒に吹きたい」と書いてくれた中学生がいましたね。今回のマーチングは1年生も含め100人超えのメンバーによる演奏でした。夢、叶いましたか。

○ day. 3

迎えた最終日は朝から曇天模様。やがて雨が降り出しました。それにも拘らず、朝から多くの保護者、中学生が押し寄せてくれ、昼過ぎには来場者が4000名を超えていました。運動部の生徒は雨に濡れながらもグラウンドで様々なアトラクションを実施してくれていました。本当にお疲れさまでした。ちなみに運動部と言えば、印象に残ったのはこの日の朝から自主的にスタンドを掃除してくれた野球部員の姿ですね。



私はこの日、教室を中心にまわらせてもらいました。それでもどこもかしこも長蛇の列。正直に言って、並ぶのはちょっと気恥ずかしかったのですが、それでも並ぶべき場所が私にはありました。実はその前日、「ピザを買ってください」と頼まれた際に、「じゃあ明日」と返事をしていたのです。



ちゃんと最後尾に並び、順番になるとピザを1枚渡されます。「あっ、3つください」と返すと、どよめきが起きました。あっ、1人で食べたんじゃないですよ。事務室に上村事務長さんと住友さんが緊急時に備えて待機してくれていましたから、2人にも少しでも文化祭気分のお裾分けがしたかったのです。

さて、お昼の吹奏楽部によるマーチング。校長室で楽しみに待っていると、いくつも扉から覗き込む顔があります。いつも通り、校長室のドアは開けっ放しにしていたのですが子どもたちが「入ってもいいですか?」と訊ねてくれます。1人を招き入れると次々と来場された方々が入ってこられて校長室はすし詰め状態。お話もでき、楽しい時間でした。



かくも熱狂的な3日間、最後を飾ってくれたのは文化委員長の心のこもった挨拶でした。最後にステージ上から見渡した皆さんの笑顔は達成感でキラキラしていました。

